



2011・国際森林年

# 「白神を考える旬間シンポジウム」と「森を歩く集い」の開催について

—— 計画課

東北森林管理局では、国際森林年を記念して、9月10日(土)に弘前市総合学習センターで「白神を考える旬間シンポジウム」を、続いて翌11日(日)に白神山地世界遺産地域周辺を散策する「森を歩く集い」を開催しました。

東北森林管理局では、国際森林年を記念して、9月10日(土)に弘前市総合学習センターで「白神を考える旬間シンポジウム」を、続いて翌11日(日)に白神山地世界遺産地域周辺を散策する「森を歩く集い」を開催しました。

イヌワシの繁殖率が低下している実態等を紹介し、列状間伐の導入等による採餌環境を向上させることの重要性を指摘しました。会場からは、ブナの害虫であるブナアオシヤチホコの被害状況やブナ林を守るためなどにササを刈り払うことの是非についての質問がなされました。

早稲田大学の森川教授は、なかなか緑にならない海外の緑化活動の事例から、自然科学だけでなく人間科学にも基づいた環境保全のシステム必要性を訴えました。東北大学の

11日の「森を歩く集い」では、国際森林年の国内テーマ「森を歩く」にちなみ、参加者に白神山地を歩いていただき、自然遺産の価値を体感していただけるよう



矢部森林管理局長からの開式の挨拶

10日の「白神山地を考える旬間シンポジウム」では、「変化する白神山地の自然を探る」をテーマに、気候、植物、動物に焦点を当て、後世に残すべき自然遺産としての価値やその



会場からの質問に答える中静教授

ニタリングの結果を基に、これまでのブナ林の変化から、シミュレーション

- ① 暗門の滝(青森県西目屋村：津軽森林管理署管内)
- ② 高倉森などブナ林(同西目屋村：同管内)
- ③ 田苗代湿原と岳岱自然観察教育林(秋田県藤里町：米代西部森林管理署管内)

保全管理手法について、学識経験者3名による講演を伺いました。当日は、地元住民のほか、大学生や白神山地

予測結果を披露しました。また、岩手県立大学の由井名誉教授は、白神山地やその周辺におけるクマゲラや

の3コースに分けての自然見学会を実施しました。当日は、青森県、秋田県などから約60人が参加しました。



鎌田さんの説明を聞く参加者(岳岱コース)

青森県側は、朝から雨というあいにくの天気で一部行程の変更がありました。したが、地元でガイドを行っているマダギの工藤光治氏、工藤茂樹氏らの案内により、参加者はマザーツリーやふれあいの道などのブナ林を散策し、ブナの森が雨を蓄える機能や樹幹を流れる雨の様子を観察しました。一方、秋田県側では、天候に恵まれ、藤里町で自然保護活動を行っている鎌田孝一氏の案内により、田苗代湿原、岳岱自然観察教育林のブナ林の恵まれた学びながら秋の白神山地を歩きました。

みどりの東北